

CONTENTS COMBAT

2014.Mar.
No.456

3

Cover Design
favorite graphics(tamao ito),
Cover Photo
SHOTGUN MARCY
©WORLD PHOTO PRESS 2014

●本文中の価格は消費税込みの
総額表示です



【第1特集／ミリタリー】

010 戦闘のリスクを極小化できるか？

Modern Day Marine Expo 2013

●Photos&Text by Robert Bruce, USA Military Affairs Editor
●Translation by Yu P.Eiwalkee

018 The Equipments of the U.S. Force
[現用米軍装備カタログ] 第114回
1990年代から現在までのアメリカ空軍
特殊部隊アイテム特集・序章

●解説:松原隆(高知ボンバース) ●撮影:山崎 学

028 月刊 自衛隊「ニッポンのちからこぶ」
工作船キラー『はやぶさ』型ミサイル艇

●取材／菊池雅之

058 New Generation Styler
ポーランド対テロ特殊部隊JW2305 GROM

●Fujiwara

085 Militaria Roundup!
アメリカ陸軍 将校用野戦装備 Part.2

●解説:菊月俊之

034 【第2特集／トイガン】
東京マルイ
電動ハンドガンシリーズ

●Photos&Text by Taku

040 WESRERN ARMS
WA/M16A4 FULL METAL CUSTOM

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

045 WESTERN ARMS
WA40th ANNIVERSARY
ULTIMATE COLLECTION

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

050 WESTERN ARMS
SNAKE MATCH 1911

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

052 CRAFT APPLE WORKS
MGCリバイバル 第3弾!
SIG P210

●Photos&Text by Taku

004 COMBAT FRONT LINE

032 兵装嗜癖

●by Fujiwara

068 第2次世界大戦ヒストリカルサバイバルゲーム
2013年ウィンターロント「オーバードウロ作戦」

●Text by Sam Motojima ●Photos by Sam Motojima/J.Ko

070 Goods & Accessory

084 サープラスいじり技術研究所

●写真・文:織本知之

096 PRESENT

130 世界の兵士図鑑

航空病と高高度と圧服

●イラスト・解説:坂本 明

134 トイガンニュース

134 WA Western Arms NEWS MODEL 2014

137 MULE TTAKAGI TYPE M2019 BLASTER
高木型式〇壱九年式爆砕拳銃

138 アメリカン・ギャングの歴史を紹介する
Mob Museum in Las Vegas

●Photos&Text by DUKE Hiroi

184 中田商店グッズ

186 S&Grafグッズ

097 GAME OVER THE TOP

100 物欲ワンホール

ROUND 29:未知への憧れ 気ままに冒険の旅 Part.2

104 レア・ミリタリー・テクノロジー

108 ミリタリー雑学講座

112 A STITCH IN TIME

113 GEAR CUSTOM WORKSHOP

PROJECT NINJA ●Tokyo Equipment Stupid

116 アメリカGUN事情 Guns Talk from US

118 蛙のゆびさき(中山 蛙)

122 帰ってきた 狩野健一郎の[監督、そこにおっぱいは必要ですか!?!]

124 トイガンズジャンクション

161 バックナンバーリスト

162 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

166 Military Collection

168 ビバ・ナイフ!

170 狩野健一郎のシネマ放浪記

171 狩野健一郎の新作DVD紹介

172 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

173 2014' 新春 ブラックホール

175 読者プレゼント応募方法

176 編集後記



戦場のリスクを
極小化できるか?

Modern Day Marine Expo 2013

『現在、我々は国家とともに我々の能力が浸食されるという非常に高いリスクに晒されている』

(=国家予算の逼迫によって軍の能力が低下する危険性が出てきた、という意味)

— ジョン・ジャンセン海兵准将／計画及び資源管理部副部長補佐／海兵隊総司令部

●Photos & Text by Robert Bruce, USA Military Affairs Editor

●Translation by Yu P.Eiwalkee

毎年恒例のモダン・デイ・マリーン・エキスポの2013年度が開催された。招待者限定講演会で、ジャンセン准将は連邦政府の予算問題により「軍団」の人的資源が削減され、それによって「軍団」の能力が低下する危惧について、非常に率直に語った。

「我々の総司令官（＝大統領）の海兵隊に対する優先事項は、我々の前進的軍事プレゼンスを維持することと、それが現在進行形であるということに対する覚悟を持つことである」と准将は

いう。「それを実現するために、我々は主要な軍事作戦においてある程度のリスクは許容しなければならない」。

中東での戦いはかつてないほど非常に長期間にわたるものとなっており、近頃は環太平洋地域に対する洋上進出の必要性もたびたび発生している。しかも実戦に負けず劣らず複雑で面倒な情勢である。とはいえ、太平洋を巡る情勢への対応そのものは、かつて海兵隊が行っていたことの延長線上であるといえなくもない。戦闘、開発及び



MDM13_01

モダン・デイ・マリーン・エキスポの後援者である海兵連盟(マリーン・コー・リーグ)は議会設立認可を受けた(合衆国法典第36編に定められた連邦協議会による設立認可を受けた)唯一の海兵退役軍人組織である。他にも海兵システムズ・コマンド(MARCORSYSCOM: 海兵隊の資機材開発部門)とクオンティコ海兵基地がこのエキスポを後援している。(www.mcleague.org)

2013年4月、カタールー第26海兵遠征隊の沿岸強襲部隊員がM40A5スナイパーライフルの実弾射撃訓練をしているところ。A5バージョンのM40は、もはや伝統ともいべきM40シリーズのスナイパー・ライフルの最新型にあたる。
(Photos: USMC photo by Corporal Christopher Stone)



海兵隊の伝説のスナイパーにちなんでカーロス・ハスコック賞の2013年受賞者であるジョセフ・A.ウィルツ伍長(右の海兵隊員)が、ロング・マウンテン・アウトフィッターズの主任火器技師にして兵器インストラクターのマット・バブ(ブースの右)と、隣のブースの『スモール・アームズ・ディフェンス・ジャーナル』誌のダン・シア編集長(ブースの左)と話している。



①海軍研究部(ONR)の展示では、MWCS(汎用兵装制御サイト)が展示されていた。これはL3インサイト(旧インサイト・テクノロジー)社が海兵隊の要求に合わせて開発した、再プログラム可能な弾道計算コンピュータ・サイトで、弾道特性を設定するための定義情報ファイルさえあれば、ライフルでも機関銃でもM203グレナードランチャーにでも対応可能となっている。弾道情報は小さな液晶画面に表示されるようになっている。②SIG社の連発機関及び重向け販売担当のデイヴ・ジョーンズが、自社のMPX-K次世代型サブマシンガンのショートストローク・ブッシュロッド・ガス・システムの利点について、クオンティコの歩兵士官コースの訓練教官であるラッセ・インジャード3等軍曹に説明している。MPX-Kは最初からコンバーチブル仕様で設計されており、簡単に9mm NATO口径、.357 SIG口径、.40S & W口径に変更することが可能だ。SIG社曰く、前線で誰でも簡単に口径、バレル長、ストロークの構成を変更(交換)できるサブマシンガンとしては、MPX-Kが世界で唯一のものだとのこと。③海兵システムズ・コマンドの技術者スーザン・トーフィンによる海兵遠征ライフル分隊(MERS: 遠征隊の最小単位とされる)の典型的な「お仕事」に関する再現ディスプレイ。「典型的な民家」を模したセット内に実際にクオンティコの歩兵士官コースの訓練教官が入り、海兵たちがどのように任務をこなしているのか展示された。
(USMC photo by Bill Johnson-Miles)



クオンティコ海兵基地にある士官基礎訓練学校で機関銃射撃訓練教官を務めるバトリック・マッキニー3等軍曹が、ロング・マウンテン・アウトフィッターズのマット・バブと「ゾンビ・スレイヤー」ショットガンについてジョークを交わしている。元々はバブが手にしているM60E3バリエーション・モデルについて話していたハズなのだが、ちなみにこの緑色のショットガンはノベルティ・アイテムだそう。

開発担当部の副部長であるケネス・グリック海兵中將は、次のように意見を述べた。「イラクとアフガニスタンでは、我々はすっかり『遠征』(艦隊海兵としての洋上～沿岸展開任務)から遠ざかってしまっていた。今や我々は遠征に戻る時期に來たといえる」。そしてこう付け加えた、「我々は『未来に戻る(バック・トゥ・ザ・フューチャー)』ことになるのだ」。

表情から見る限りジョークというわ

けではなさそうだ。つまり、海兵隊は本来の姿、「強襲揚陸艦とともに海を渡り、必要とあらは緊急展開する」という以前の運用に戻るだろう、ということである。

海兵システム部の部長であるフランク・ケリー准将は、軍事関連産業界の関係者を前にし、軍と民間企業のパートナー展開に対する窓口は「極めて大きく開かれている」と強調した。

「我々は諸君の感想、意見、質問を喜



右の兵士はバラクレイト製 GACKハード・プレートキャリアを装備。M4マガジンポーチはタクティカル・テラー製を付けている。
[Photo: U.S.AIR FORCE]

Crye Precision 社製の MULTICAM BDUを着たふたりの兵士はバラクレイト製 GACKハード・プレートキャリアを装備。
[Photo: U.S.AIR FORCE]

左のPJ (Pararescuemen: パラシュート降下救難員) 兵士はEAGLE industries製/パラレスキューベスト、右の兵士は官給品MOLLE2 FLCキットを装備している。ヘルメットはRBR社製。
[Photo: U.S.AIR FORCE]



右端の兵士はCrye Precision製JPC (Jumpable Plate Carrier) プレートキャリアを装備。[Photo: U.S.AIR FORCE]



チェストリグの下にバラクレイト製RCV (RAV Concealment Vest) を着用している。[Photo: U.S.AIR FORCE]

海外実物画像の装備紹介

NAVY SEALsと並び高価で入手困難なアイテムが多いアメリカ空軍特殊部隊。PJやCCTは日本でも大人気だが、その装備を1990年代から追うと、SEALs隊員とはまた少し違った道を歩んでいることがわかる。今回はその序章とし数回にわけて特集をする。

The Equipments of the U.S. Force

【現用米軍装備カタログ】 第114回

1990年代から現在 特殊部隊アイテム特

までのアメリカ空軍 集・序章

●解説: 松原隆 (高知ボンバズ) ●撮影: 山崎 学
●協力ショップ: LAZY CAT (<http://lazycat.jp/>) /
Gamis (<http://www2.ocn.ne.jp/~gamis/>)



- 全長：215mm
- 重量：685g
- 装弾数：30発
- 価格：1万6590円

電動ハンドガンシリーズの最新モデル『M9A1』。ピカティニーレールマウントを装備したM92Fの最新バージョンである。

寒い冬のハンドガン選びほど頭を悩ませるものはない。暖かい季節ならば文句ナシに「ガスブローバックハンドガン」をチョイスしたいところ。しかし気温が10度を下回る冬場にガスガンは少々というか、かなりキツイ。マガジンを暖めておき、常に適温を維持できるのであれば、性能を発揮できるものの、スグにガスが冷えてしまい気化効率は低下してしまう。そのため本来の性能を維持するのが難しいのだ。

冬だろうが夏だろうが、外気温に左右されることなく季節を問わずに安定した性能を発揮してくれるのが、エアコッキングガンであり電動ガンなのだ。これらのモデルは、シリンダー内で圧縮した空気をパワーソースとする。し

たがって気温の変化を受けにくく、常に安定したパワーと命中精度を発揮する。特に電動ガンは、ビギナーからベテランまで幅広い層に人気だが、中でも根強いファンを獲得しているモデルが、この『電動ハンドガンシリーズ』だ。

ライフルタイプの電動ガンで培った技術をギュッと凝縮し、ハンドガンへと詰め込んだ電動ハンドガンは、取り扱いやすく、季節を通じて楽しめるもあり、サバイバルゲーマーはもちろん、スピードシューティングなどでも愛用されている。

何といっても、電動ハンドガンシリーズの最大の利点は「温度変化に強い」という点だろう。夏から冬まで、四季を通じ外気温による性能の変化もなく



アメリカ合衆国政府は1950年から'51年にかけて組織犯罪に対抗するためのキーフォーバー委員会を設立し、全米約14都市で公聴会が開催された。ラスベガスでは1950年11月15日に、この建物の中の法廷で公聴会が行なわれた。そして2012年2月14日、マフィアが拓いたと伝えられるこの街に“モブ・ミュージアム”がオープンした。それを踏まえ、マフィア対官憲の歴史を見る、とても興味深い博物館である。マフィアに関する記述やストーリーは

我が国日本でも数々伝わっているがフィクションに脚色されたものが多く、真実を伝えるものは極めて限られているのが現実。これは本国アメリカでも例外ではない。モブ側のアル・カポネやバグジー・シーゲル、ジョン・ゴッティ、ラッキー・ルチアーノそしてそれに対抗したGメン側のエドガー・フーバー、エリオット・ネスやメルヴィン・パーヴィス等の真実を学習するための施設だ。そもそもこのラスベガスという街は

ネバダ砂漠のスプリング・フィールド(泉の湧くオアシス)として西部開拓時代から存在していた。つまりバグジー・シーゲルがイチから創ったというのは



スクリーンで元マフィアのおっさん達が語るエントランス。郵便の私書箱がアメリカらしい。「俺が若くてころ野郎みてえなことぬかしたら5分と生きてネエよ！」みたいなことをいった。

アメリカン・ギャングの歴史を紹介する Mob Museum in Las Vegas



ラスベガスのダウンタウン中心部、スチュワートアベニューに歴史的な建物としてアメリカ合衆国政府とネバダ州が認定した旧連邦裁判所とそれに併設した郵便局がある。

それが現在ではモブ・ミュージアム(Mob Museum)として公開されている。

モブとは直訳すれば暴徒であり、いわばヤクザ、マフィアを示す言葉だ。

この極めて珍しいマフィア博物館をデューク廣井のアメリカ武者修行リポートの第3弾として紹介しよう。

Photos & Text by DUKE Hiroi

伝説にすぎない。その後フーバーダムの建設が始まり、街が膨張していったのだ。前回、前々回のリポートでデュークが射撃練習をした隣町のボーダーシティはフーバーダムを建設するために労働者を集めた街である。このダム湖であるレイク・ミードの灌漑能力によりラスベガスはより広大な都会となったのだ。また余談ではあるが、このダムは32代大統領フランクリン・ルーズベルトのニューディール政策の一環で造られたといわれているが、着工はルーズベルトの就任前で、もともとはボーダーダムの呼称だった(ゆえにボーダーシティ)。フーバーとは前任の31代大統領ハーバート・フーバーから



移民検問所のパネル。なぜか日本からの移民団がどアップです。



マフィアと法 当時の法執行官が使用していたグッズの展示。

Mob Museum

300スチュワートアベニュー ラスベガス、ネバダ州

<http://themobmuseum.org/>

info@themobmuseum.org

14歳未満は大人の同伴が必要。展示物の中には犯罪現場の写真や大量の武器のコレクションなど、かなり生々しいものがありますのでご注意を。

きたものである。

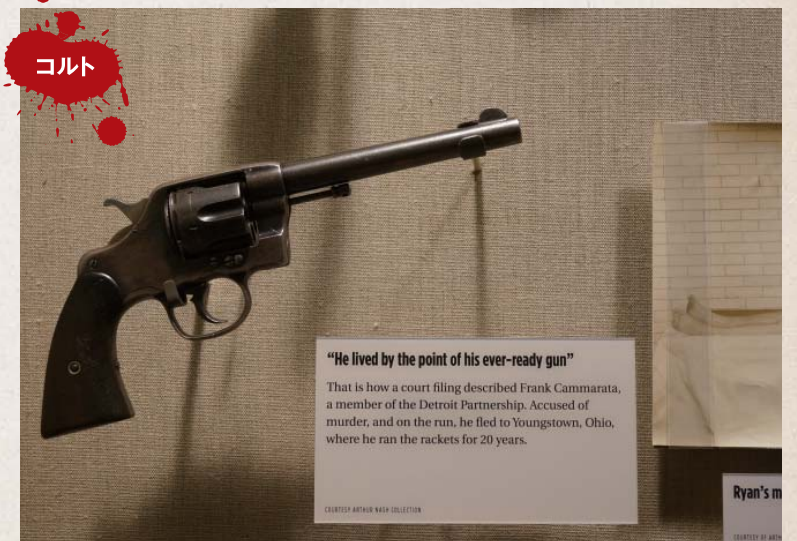
博物館は移民の歴史と各民族の利益誘導集団からマフィアは生まれた。というプロローグから始まり、実際に使われたシカゴ・タイプライターと異名をとるトンプソンM1928などの銃火器やナイフを中心とする武器の数々、そしてドラッグやマネーロンダリングの機器、賭博のための電信システム、密造酒、売春などのカテゴリーが紹介されている。中でも目を引いたのがシカゴ皆殺しの壁だ。オープンの2012年2月14日は、シカゴでアル・カポネとバグズ・モラン一家の抗争で多くの血が流れた「聖バレンタインデーの虐殺」から数えて83回目の記念

日なのである。聖バレンタインデーの虐殺が起こった現場は現在、老人ホームの駐車場になっているが、.45口径の銃弾を大量に浴びた壁は、その大部分が史跡として回収され修復を受けた。現在、この壁が博物館に設置され展示の目玉となっている。他にも電気椅子や実際に殺人現場になった床屋のイスなどが目白押しで時間が経つのを忘れるほどだ。ベガスへ観光の際にはぜひ立ち寄ってもらいたい。本コーナーでは予習として写真でマフィアをじっくりと勉強して頂戴ね。

次回第4弾はネバダからアリゾナに移動します。自衛する市民の現実でデュークも驚愕しました。お楽しみに。



面通し 犯罪者面通し体験コーナー。HOW DID IT COME TO THIS? ちゃんと検査官のいう通りに一歩前に出たり右や左に向いたりしないとイケません。



コルト いわずと知れたコルト.45ダブルアクションリボルバー